



## 安全データシート (SDS)

## 1. 製品及び会社情報

昭和化学株式会社  
東京都中央区日本橋本町4-3-8

担当

TEL(03)3270-2701

FAX(03)3270-2720

緊急連絡 同上

改訂 平成29年11月07日

SDS整理番号 19231350

製品等のコード : 1923-1350、1923-0330、1923-1360、1923-1380

製品等の名称 : アルギン酸ナトリウム

推奨用途 : 試薬

参考: その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)  
増粘剤、結合剤、安定剤、ゲル化剤、歯科材料(歯科印象剤)、  
カプセル剤(人造いくら等) など

## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

物理化学的危険性  
可燃性固体 : 区分外  
自然発火性固体 : 区分外

健康に対する有害性  
急性毒性(経口) : 区分外  
皮膚腐食性・刺激性 : 区分外  
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 : 区分外  
発がん性 : 区分外

環境に対する有害性  
水生環境急性有害性 : 区分外  
水生環境慢性有害性 : 区分外

絵表示又はシンボル : 該当なし

注意喚起語 : 該当なし

危険有害性情報 : 該当なし

## 注意書き

【安全対策】  
保護眼鏡、保護手袋、保護衣、呼吸用保護具を着用すること。

【応急措置】

該当なし

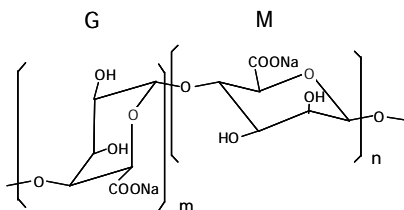
【保管】

直射日光を避け、容器を密閉して冷暗所に保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「分類対象外」、「区分外」又は「分類できない」である。



## 3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 : 単一製品  
化学名 : アルギン酸ナトリウム  
(英名) Sodium alginate,  
Alginic acid, sodium salt (TSCA名称)  
成分及び含有量 : アルギン酸ナトリウム、90.0~106.0% (乾燥後)

本品は、天然産のコンブやワカメなどから抽出精製した天然多糖類の水溶性塩（ナトリウム塩）である。アルギン酸Naは、基本的にβ-D-マンヌロン酸Na(M)とそのC-5エピマーである -L-グルロン酸Na(G)の2種のブロックが 1,4-グリコシド結合した直鎖構造の重合体（多糖類）である。アルギン酸の鎖状構造の中でMとGはランダムに存在し(M-M結合やG-G結合のほかM-G結合がランダムに混在する)、M/G比率や配列により、アルギン酸Naのゲル化能力やゲル強度に大きな影響を及ぼす。

化学式及び構造式	:	重合体のため、特定できず。 一般式は、(C <sub>6</sub> H <sub>8</sub> NaO <sub>6</sub> ) <sub>x</sub> 一般的な構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	:	重合体のため、特定できず。 C <sub>6</sub> H <sub>8</sub> NaO <sub>6</sub> = 216.12
官報公示整理番号	化審法	(8)-237
	安衛法	公表化学物質（化審法番号を準用）
CAS No.	:	9005-38-3
危険有害成分	:	特になし

#### 4. 応急措置

吸入した場合	:	呼吸が困難になった時は、新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の手当てを受ける。
皮膚に付着した場合	:	皮膚を流水と石鹸で洗う。 皮膚刺激などが生じた時は、医師の処置を受ける。
目に入った場合	:	直ちに水で15分以上注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。 眼刺激が持続する時は、医師の治療を受ける。
飲み込んだ場合	:	口をすすぎ、うがいをする。 コップ数杯の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。 気分が悪い時は、医師の手当てを受けること。

予想される急性症状及び遅発性症状：情報なし

#### 5. 火災時の措置

消火剤	:	本製品は可燃性である。 散水、噴霧水、泡消火剤、二酸化炭素、粉末消火剤、乾燥砂
使ってはならない消火剤	:	棒状放水（本品があふれ出し、火災を拡大するおそれがあるため）
特有の危険有害性	:	火災によって刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	:	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。 風上から消火活動をする。
消火を行う者の保護	:	消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

#### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	:	漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。 風上から作業し、粉じんを吸入しない。 粉じんが飛散する場合は、水噴霧し飛散を抑える。 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
環境に対する注意事項	:	河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。
回収、中和	:	漏洩物を掃き集め、密閉できる空容器に回収する。 漏洩物が飛散する場合は、水を散布し湿らしてから回収する。 回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。
封じ込め及び浄化の方法・機材	:	危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策	:	周辺の発火源を速やかに取除く。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

#### 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	:	
技術的対策	:	粉じんの発生を防止する。
局所排気・全体換気	:	必要に応じて、局所排気又は全体換気を行なう。
安全取扱い注意事項	:	すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。
接触回避	:	湿気、水、高温体との接触を避ける。
保管	:	
技術的対策	:	保管場所は、製品が汚染されないよう清潔にする。

保管条件 : 直射日光や高温高湿を避ける。  
容器を密閉して冷暗所に保管する。  
混触危険物質 : 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。  
容器包装材料 : 強酸化剤  
ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラス等

#### 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度 : 設定されていない。  
許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標) :  
日本産衛学会(2017年版) 設定されていない  
ACGIH(2017年版) 設定されていない  
設備対策 : この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。  
粉じん、蒸気、ガスなどが発生する場合、換気装置を設置する。  
保護具  
呼吸器の保護具 : 呼吸器保護具(防じんマスク)を着用する。  
手の保護具 : 保護手袋(塩化ビニル製、ニトリル製など)を着用する。  
眼の保護具 : 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)を着用する。  
皮膚及び身体の保護具 : 長袖作業衣を着用する。  
衛生対策 : 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。  
取扱い後はよく手を洗う。

#### 9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など : 白～帯黄白色の粉末  
臭い : 無臭～微特異臭  
pH : 6～8(1%水溶液)  
融点 : 分解  
沸点 : 分解  
引火点 : データなし  
爆発範囲 : データなし  
蒸気圧 : データなし  
蒸気密度(空気 = 1) : データなし  
密度 : 約0.75～0.8(かさ密度)  
溶解度 : 温水や冷水にも溶けやすい。  
中性～アルカリ溶液に溶ける。  
酸にほとんど溶けない。  
カルシウムを含有する液には溶けない。  
エタノール、ジエチルエーテル、ヘキサンなどの有機溶剤にほとんど溶けない。  
オクタノール/水分配係数 : データなし  
自然発火温度 : データなし  
分解温度 : データなし  
粘度 : 300～400 mPa·s (= 300～400 cP)(1%水溶液、20 )

#### GHS分類

可燃性固体 : 易燃性を有せず、また、摩擦により発火あるいは発火を助長する恐れがなく、さらに、国連危険物輸送勧告(UNRTDG)のクラス4.1(可燃性固体)にも該当しない非危険物であることから、区分外とした。  
自然発火性固体 : 発火点は70 超であり、常温の空気と接触しても自然発火しないことから、区分外とした。

#### 10. 安定性及び反応性

安定性 : 通常取扱条件において安定である。  
本品の水溶液にマグネシウムイオンやカルシウムイオンを添加するとゲル化する。  
危険有害反応可能性 : 強酸化剤と混触すると反応することがある。  
避けるべき条件 : 日光、熱、湿気、裸火  
混触危険物質 : 強酸化剤  
危険有害な分解生成物 : 一酸化炭素、二酸化炭素

#### 11. 有害性情報

急性毒性 : 経口 ラット LD50 > 5000mg/kg  
飲み込んででも有害性は低く、区分外とした。  
皮膚 毒性は低く、区分外である。  
吸入(蒸気) データがないため分類できない。  
吸入(粉じん) 毒性は低く、区分外である。  
皮膚腐食性・刺激性 : 皮膚刺激性は低いので、区分外である。  
眼に対する重篤な損傷・刺激性 : 眼に入っても刺激は低く、区分外である。  
呼吸器感受性又は皮膚感受性 : 知見がないため分類できない。

- 生殖細胞変異原性発がん性 : 知見がないため分類できない。  
 : IARC、ACGIH、NTP、EPAに記載がないため分類できない。  
 雌雄のSwissマウスに漸次濃度を増加させながら最終濃度を25%  
 (投与39週目)とした添加飼料を89週間混餌投与した試験で、発がん性  
 を示唆する変化は認められなかったため、区分外とした。
- 生殖毒性 : 雌雄のラットに5%添加飼料を2年間混餌投与し、期間中にF1および  
 F0を得た試験で、親動物、F1及びF2動物の成長率に差異はみられず  
 生殖能にも異常は認められなかったため、区分外とした。
- 特定標的臓器・全身毒性  
 (単回ばく露) : 6名の健康成人が毎日8gを7日間摂取した試験で、有害影響はみ  
 られなかったため、区分外とした。
- 特定標的臓器・全身毒性  
 (反復ばく露) : ラットにアルギン酸ナトリウムを5%添加した飼料を全生涯(最大128  
 週間)与えたが、生存日数、体重、摂食、摂水等に悪影響は見られず  
 剖検時の肉眼触手による検査では異常は認められなかったため、  
 区分外とした。
- 吸引性呼吸器有害性 : データがないため分類できない。

## 12. 環境影響情報

- 水生環境急性有害性 : 天然高分子が原料であり水生生物に対する毒性は低いことから、  
 区分外とした。
- 水生環境慢性有害性 : 急性毒性が低く、良分解性〔分解度 84% by BOD (経産省既存化学  
 物質安全性点検結果)〕であり、生物蓄積性は低いことから、  
 区分外とした。
- オゾン層への有害性 : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていない  
 ため、分類できないとした。

## 13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。  
 都道府県知事などの許可(収集運搬業許可、処分業許可)を受けた産  
 業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を交付して  
 廃棄物処理を委託する。  
 廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知  
 の上処理を委託する。  
 必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の  
 処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。  
 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま  
 埋め立てたり投棄することは避ける。  
 (参考)(1)燃焼法  
 ケイソウ土、木粉(おが屑)等に混合又は吸収させて、アフターバー  
 ナー及びスクラバ付き焼却炉の火室で焼却する。  
 (2)活性汚泥法
- 汚染容器及び包装 : 生分解性があるので、活性汚泥処理が可能である。  
 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って  
 適切に処分する。  
 空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者  
 に処理を委託する。

## 14. 輸送上の注意

- 国内規制(適用法令)  
 陸上規制 : 特段の規制なし(非危険物)  
 海上規制 : 特段の規制なし(非危険物)  
 航空規制 : 特段の規制なし(非危険物)
- 国連番号 : 非該当  
 国連分類 : 非該当  
 品名 : 非該当  
 海洋汚染物質 : 非該当  
 特別の安全対策 : 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのない  
 ように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。  
 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。  
 重量物を上積みしない。

## 15. 適用法令

- 労働安全衛生法 : 非該当  
 毒物及び劇物取締法 : 非該当  
 消防法 : 非該当  
 化学物質管理促進法(PRTR法) : 非該当  
 船舶安全法 : 非該当  
 航空法 : 非該当  
 水質汚濁防止法 : 生活環境項目(施行令第三条第一項)  
 「生物化学的酸素要求量及び化学的酸素要求量」

輸出貿易管理令

〔排水基準〕160mg/L 以下（日間平均 120mg/L 以下）  
（注）排水基準に別途、条例等による上乘せ基準がある場合はそれに従うこと。  
：別表第1の16項(キャッチオール規制)  
第39類 プラスチック及びその製品  
HSコード(輸出統計品目番号、2017年5月16日版)：3913.10-000  
「天然の重合体 - アルギン酸並びにその塩」

16. その他の情報

（注）本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考情報（ウィキペディア）

人造イクラ：塩化カルシウム水溶液にアルギン酸ナトリウム水溶液を一滴ずつ入れるとアルギン酸ナトリウムと塩化カルシウムが反応し、アルギン酸ナトリウム水溶液の表面にアルギン酸カルシウム膜が形成される。すると、アルギン酸ナトリウム水溶液が球状になり、混ざらない。いわゆる人造イクラである。

参考文献：

化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances	NIOSH CD-ROM
GHS分類結果データベース	nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP
ウィキペディア	フリー百科事典

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2012に準じ作成しています。